



JAグループ国産農畜産物商談会



食農ビジネスフォーラム講演会

輸出サポートの取り組み

当金庫では、輸出を目指す会員・農林漁業者等が着実に輸出に取り組めるよう、パッケージ化した輸出サポートプランを提供しています。平成28年度は、これまで各施策にご参加いただいた方々からの意見を踏まえ、より深く、より実践的な内容へとバージョンアップを図り、

さらなる輸出促進への取り組みに努めました。具体的には、①輸出広報物「輸出の芽」の発刊(四半期ごと)、②輸出セミナーの開催、③海外テストマーケティングの開催、④海外見本市への出展、⑤沖縄大交易会への参加機会を提供しています。

商談会・ビジネスマッチングへの取り組み

当金庫では、系統の全国組織としての特色を活かし、系統団体・農林水産業者、および法人取引先等のニーズを収集し、組織同士の恒常的な取引につなげるビジネスマッチングや商談会を実施しています。

平成28年度は、全国商談会をはじめブロック商談会等を開催するとともに、商談力強化セミナーの開催を通じて、流通・小売業界の理解促進、商談ノウハウ等の習得をサポートしています。

食農ビジネスフォーラムの開催

平成29年4月、日本農業経営大学校を運営する(一社)アグリフューチャー・ジャパンとともに、「農林中金 食農ビジネスフォーラム2017」を開催しました。このフォーラムは、これまで「農林中金 アグリエコセミナー」として、産業界のニーズと多様な生産者をつなぐ架け橋の役割を果たすべく、平成24年から開催しており、今回で6回目の開催となります。

当日は、(株)山城経営研究所の鈴木豊代表取締役社長から「より良き経営の道筋を～ロマンとそろばん～」をテーマにご講演いただいたほか、日本農業経営大学校

の堀口健治校長からは、同校の取り組み内容について報告がありました。そして今回は、同校の卒業後、農業に従事している3人からのビデオメッセージを通して、将来の夢、現状と課題、アグリフューチャー・ジャパン会員のみなさまへの感謝の言葉などを紹介しました。

また同校では、本フォーラムを特別講義としてカリキュラムに組み込み、講演会・懇談会の双方に学生31人が参加。懇談会では、卒業後の就農計画の立案に向けて、学生が農業経営者や企業関係者と積極的に意見交換する姿が見られました。

6次産業化への取り組み

当金庫を含むJAグループは、平成25年5月、農林漁業成長産業化支援機構(A-FIVE)と系統の出資によるサブファンド「農林水産業協同組合ファンド」を設立し、6次産業化に取り組む農林漁業者に対し、事業計画の策定支援をはじめ、資金面・事業面・経営面から多様なサポートを行っています。

設立以降、農林漁業者とパートナー企業の合弁出資等により設立される6次化事業体に対して、11件の投資を決定し(平成29年3月末時点)、全国に48ある同種のファンドのなかで最大の投資実績を確保しています。今後も本ファンドの活用等を通じ、地域の農林水産業のさらなる発展に貢献します。

再生可能エネルギー事業への取り組み

JAグループでは、農林水産業との調和のとれた地域活性化につながる再生可能エネルギー事業に対し、地域・農業者の代表として積極的に関与することとしており、当金庫はJA共済連(全国共済農業協同組合連合会)

とともに「農山漁村再エネファンド」を立ち上げ、地域主導の再生可能エネルギー事業に対し金融面から支援する体制を構築しています。

農林水産業みらい基金への応援



農林水産業と食と地域の暮らしへの貢献に向けて、当金庫が基金拠出を行い、平成26年3月に一般社団法人農林水産業みらい基金(以下、「みらい基金」)を設立しました。

平成28年度、みらい基金では、創意工夫にあふれた取り組みで、直面する課題の克服にチャレンジしている地域の農林水産業者への後押しとして9件の助成対象

事業が採択されました。

みらい基金の社員である農林中央金庫は、JA、JF、JForestグループの一員として、みらい基金が展開する農林水産業みらいプロジェクトを応援してまいります。

みらい基金による平成28年度の助成先の一部をご紹介します。(http://www.miraikikin.orgで、これまでの活動を紹介しています。)

きたそらち農業協同組合+クラーク記念国際高校(北海道) 「食育」から始まる農村資源を活かしたコミュニティビジネス起業～「北海道のファンづくり」食や体験の魅力発見・発信プロジェクト～

このプロジェクトは、地域の活性化を目指すJAきたそらちとクラーク記念国際高等学校が、連携して食育を行う事業です。JA女性部と高校生が共同利用する農作物加工施設を高校の敷地内に建設します。また、JA・高校・JA女性部・高校生がメンバーの協議会で、ともに授業のカリキュラムや新商品の開発などを検討。地元の農作物をふんだんに使った加工作業等を行います。

今後は、この加工施設を、食育の発信地および農家と若者の交流の場と位置付け、農業の価値を次世代に伝える活動を推進しながら、地域の活性化を目指します。



株式会社鹿渡島定置(石川県) 衛生環境強化と自動選別機導入によって魚価向上と若手漁師の漁業定着を目指す

(株)鹿渡島定置は、能登半島の東海岸にある漁港「鹿渡島港」を拠点に、定置網漁業を営んでいます。手書きの漁業マニュアルの活用などにより、若者の就漁および技術の伝承が進んでおり、社員の平均年齢は30代半ばと若い力で漁業が営まれています。その一方で、本拠地の漁港は、不利な立地条件などから、漁港のインフラ整備が追いついていない状況でした。このプロジェクトでは、漁港に必要なインフラを整備し、衛生環境の強化や魚価の維持・向上につなげ、すでにある若者を惹きつける流れに加えて、若者の定住、および地域活性化につながる狙いがあります。

一般財団法人広島県森林整備・農業振興財団(広島県) コウヨウザンの苗木生産と耕作放棄地への植林～早生樹で耕作放棄地を宝の山に～

常緑針葉樹「コウヨウザン」は、最近の研究によると、強度はヒノキと同じでありながら、成長速度はスギより早く、また出荷までの生育年数はヒノキ・スギの半分ということが分かりました。さらに、切り株から自然に萌芽して成木に再生するため、再造林にかかるコストも不要です。

このプロジェクトは、今後の林業活性化への期待が高いコウヨウザンの大型苗木生産施設の建設や、農地/バンク機能を活用した耕作放棄地への植林を進めて、広島県をコウヨウザンの一大生産基地にしていこうという取り組みです。

